

Library News

Vol.4



図書館セミナー『本 de 自分史』



イベント案内



おすすめ本



図書館案内

図書館倶楽部では新メンバーを随時募集中!

学部・学科は問いません。私たちと一緒に
“また行きたくなる・学びたくなる図書館”
を創りませんか?

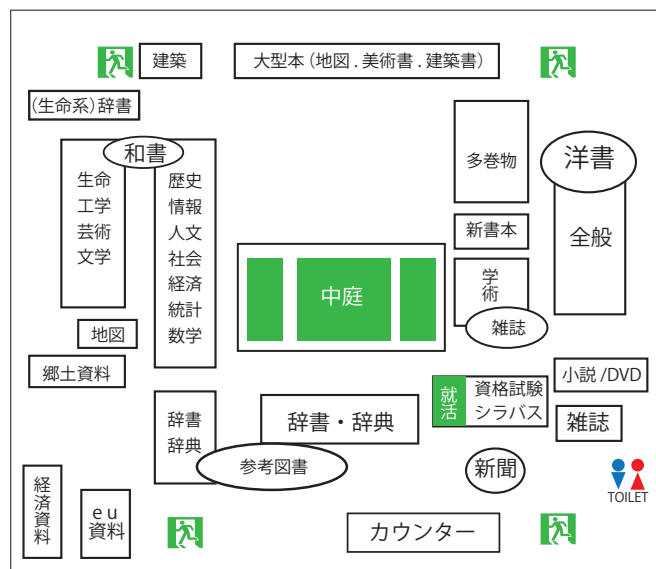
発行：図書館倶楽部

☎ 084-936-1589

住所：広島県福山市学園町1番地三蔵

表紙デザインメディア情報文化・二川芳美

図書館案内



図書購入希望

学生限定で本の購入を受け付けています。

読みたい本が図書館にない場合、購入申し込みができます。図書館カウンター、又はマイライブラリよりお申し込みください。

貸出可能冊数

	図書	消耗図書
1～3年生	5冊(15日以内)	3冊
4年生以上	10冊(1か月以内)	(1週間以内)

利用時間：月～金 8：30～19：30

土(本館) 8：30～16：30

土(分館) 8：30～15：00

(日・祝祭日、本学の定めた休日は閉館)

イベント案内

知的書評合戦 ビブリオバトル

先日、4/22に行われたビブリオバトル集会の
第二回の開催が決定しました！
今回の発表テーマは「ミステリー作品」です！

2015年6月10日(水)

16：20～17：50

福山大学附属図書館 ラーニングcommons

参加者・観覧者大募集！！

詳しくは図書館カウンターへ

ビブリオバトル公式ルール

1. 発表者は、読んで面白いと思った本を持ち寄る
2. 順番に本を紹介する
3. 各自の発表後、2,3分のディスカッションを行う
4. 「一番読みたいと思った本」を基準に投票する
→ 最多票を集めた本を『チャンプ本』とする！

5/27 (水) 開催 図書館セミナー『本 de 自分史』

今回は、人間文化学科の脇先生、大学教育センターの竹盛先生、若松先生が「本」についてあらゆることを語っていただきました。

「本 de 自分史

—もうすぐ絶滅するという紙の書物について—

講師：脇忠幸、竹盛浩二、若松正晃

今回の図書館セミナーでは3人の先生方に3冊の「本」を通して、自分史を語って頂きました。その内容は『人生で初めて読んだ本』の話や『自分に強い影響を与えた本』の話、『何度でも読み返したくなる本』の話、『生涯を掛けてでも挑む価値のある本』の話、『教え子に癌と戦うために送った本』の話など様々な話を「本」を通して語って下さいました。

やはり「本」というものは人生にとって重要で大切に、かけがえない物だと強く感じさせてくれるセミナーでした。

ただ今、この大切な「本」は形を変え、電子書籍へと変わっていています。この事は時代の流れであり、良い面も悪い面もありますが、いずれ紙という媒体は主流ではなくなってしまうそうです。

確かに電子書籍では内容そのものは変化しませんが、「本」にある重さや匂いや手触りなどは電子書籍にはありません。それらはいわゆる価値はないのかもしれませんが「本」の思い出にはたしかにそこに在ったものです。それらが無くなってしまふあと、ほんの少しの時間、皆さん「本」を読んでみませんか？

編集：藤原



本 de 自分史に参加した学生からの感想

今回の図書館セミナーで、本それぞれに違う物語があるように、読み手にもそれぞれの物語や思い出があるということを深く感じる事ができました。また、本に対する個人の考え方も多種多様で、参加することができて良かったと感じています。

セミナー後半には、電子書籍と紙の本についてのお話がありました。私は利便性でいえば確かに電子書籍の方が高いと思いますが、本自体が持つ温かさを求める人がいる限り、紙を媒介とした本はなくなるのではないかと思います。どちらにもそれぞれの良さがあり、その良さを生かしていける形を取れるように考えていくことがこれから大切だと感じます。



おすすめ本

図書館倶楽部メンバーお勧め本

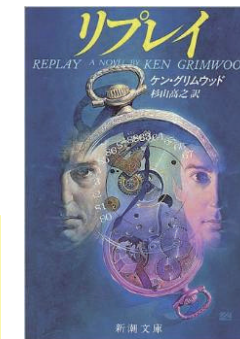
今回の担当はF君です！



夏への扉

SF界の巨匠ロバート・A・ハイラインの名作。最愛の恋人に裏切られ、仕事も友人も失い、完全に人生に絶望した主人公が行ったある決断からどんどん話が急展開していきます。

もし今、人生に未来がない感覚がして、もうどこにも行き場のないような感覚に襲われているなら、きっとその答えをくれる作品です！……あと猫が好きならもっとオススメです。



リプレイ

43歳で死亡したジェフは、気がつくや学生寮にいた。どうやら18歳に逆戻りしたらしい。記憶と知識は元のまま、身体は25年前のもの。人生をもう一度やり直せたら、という窮極の夢を実現した男の意外な人生とは？

ゲームなどでおなじみのタイムリープ物の基盤となった作品です。ループ物で考えられる展開をこれでもかと考え、思考実験の行き着く先に美しい光を見せてくれる作品です。



サキ短編集

短編作家といえばO・ヘンリーですが、彼と並ぶとされているのが、この「サキ」です！サキの作品は非常に嫌らしい皮肉な諷刺が多く、いわゆるブラックユーモアと呼ばれるような作品です。

彼の視点の切り取り方は素晴らしく、日常に平々凡々と暮らしている私たちには分からないような風景を見せてくれます。